

**「大川の駅」(仮称) 整備・運営事業
民間活力導入に向けた公募型サウンディング調査
結果概要**

本事業の実施にあたっては、従来の本市公共施設の整備・運営方法とは異なり、設計・建設・維持管理・運営を一括して性能発注することにより、各民間事業者ならではの知恵をそれぞれ最大限に引き出して行う、PPPの手法を採用することとしています。

本サウンディング調査は、事業手法及び事業公募前に作成する実施方針や要求水準案の検討にあたり、民間事業者の皆様の意見をお聞きし、参考とするために実施しました。

本調査の結果について、次のとおり公表します。

1. 実施期間 令和5年10月10日(火)～18日(水)
2. 対象者 本事業に係る設計・建設・運営・維持管理等にご意見・ご提案があり、参画意欲のある法人又は法人のグループ(以下「法人等」といいます。)
3. 参加者数 21法人等
4. 調査結果概要

- 九州全域から人を呼べるきっかけとなる目玉が欲しい。インパクトのあるシンボリックな施設、コロナ後のアウトドアブームにあわせたフィールド利用やランドスケープの面白さなどと、木工産業を組み合わせ、ここにしかないものをアピールすることが望ましい。
- インテリアにあまり興味の無い層をも引き込み収益に繋がられるような仕掛けが求められる。
- 建物の内装、家具、照明、店舗什器、食器などについて、要求水準書では、詳細な条件を設ける仕様発注ではなく、事業者の提案に委ねる性能発注としていただきたい。
- 飲食施設の規模が大きければ、店舗形式や店舗数などフレキシブルに検討できる。
- 地産地消の直売所を充実させることが広域からの集客につながる。
- ベビーコーナーは、面積の大小は別として、施設の中にある程度分散すると利用しやすい。
- 親水機能エリアにおいては、行政と事業者の責任の所在を明確にする必要がある。
- 夜間営業は、具体的な日数を要求水準としない方が良い。
- 資材高騰や労務費高騰を踏まえた適切な事業費の設定をお願いする。